

資料6

米に関するマンスリーレポート の活用について

平成28年11月

米に関するマンスリーレポートの掲載情報 ①

米に関するマンスリーレポート（以下「マンスリーレポート」という。）は、価格動向や需給動向に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した生産や米取引に資することを目的として、平成23年4月に発刊し、毎月定期的に公表。

米に関するマンスリーレポートによる主な情報提供の内容

	主食用米	主食用米以外		米以外	支援等
		飼料用米 ・加工用米等	MA米		
国の指針等	<ul style="list-style-type: none"> 米の基本指針 生産数量目標 	<ul style="list-style-type: none"> 政府備蓄米の買入 			<ul style="list-style-type: none"> 米の安定取引研究会報告書の概要
生産段階における情報 どのくらい作付・生産されているか どのくらい輸入（輸出）されているか	<ul style="list-style-type: none"> 水稻の作付面積、収穫量 水稻うち玄米の農産物検査結果 	<ul style="list-style-type: none"> 飼料用米作付面積 加工用米の生産量 新規需要米の用途別認定状況 	<ul style="list-style-type: none"> MA米の輸入数量 SBS輸入数量 コメ・コメ加工品の輸出数量【財務省（貿易統計）】 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜等の需給情報 	<ul style="list-style-type: none"> 水田活用の直接支払交付金
流通・販売段階における情報 契約・販売の進捗はどうか 産地品種銘柄の市場評価（価格）はどうか	<ul style="list-style-type: none"> 主食用米の需給見通し 産地別契約・販売状況 産地別事前契約数量 産地別民間在庫状況 米の相対取引価格・数量 米の先物取引価格 米取引関係者の判断(DI)【米穀機構調査】 	<ul style="list-style-type: none"> 加工用米取引結果 飼料用米の需要量 	<ul style="list-style-type: none"> 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果 	<ul style="list-style-type: none"> 麦の産地別銘柄別入札結果 大豆の産地別銘柄別入札結果 野菜の出荷及び価格の見通し 	<ul style="list-style-type: none"> 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）
消費段階における情報 どのくらいの量・価格で消費されているか	<ul style="list-style-type: none"> 1人1ヶ月当たりの精米消費量【米穀機構調査】 1世帯1ヶ月当たりの米の購入数量【総務省（家計調査）】 米類の物価【総務省（消費者物価指数）】 5kgうるち米小売価格【総務省（小売物価統計）】【POSデータ】 		<ul style="list-style-type: none"> SBS輸入米の見積合わせ結果 	<ul style="list-style-type: none"> 1世帯1ヶ月当たりのパン、めん類の購入数量【総務省（家計調査）】 パン、めん類の物価【総務省（消費者物価指数）】 	<ul style="list-style-type: none"> 米穀周年供給・需要拡大支援事業

米に関するマンスリーレポートの掲載情報 ②

発行当初、マンスリーレポートは、全17ページで構成。その後段階的に内容の充実を図り80ページを超えることとなったことから、本年2月から毎月更新しない情報等を別冊（資料編）として整理。
 以下は、現在のマンスリーレポート（本体）の目次。

○ 特集（不定期）

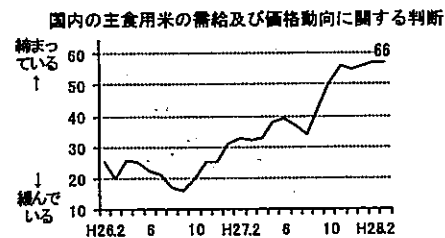
当月の米に関するトピックなどを掲載

3月の特集
 ふるさと納税の返礼品として提供されたお米
 （平成27年1月～12月）

全国の市町村数	返礼品として米を提供している自治体	回答	返礼品として米を提供している量 (H27.1～12)
1,718	732	724	13,100t

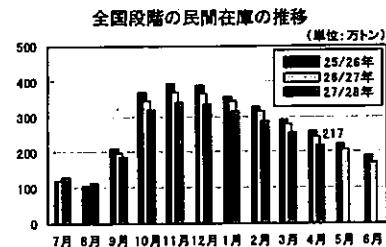
○ 米取引関係者の判断

主食用米の需給動向として、米取引関係者の判断に関する調査を掲載



○ 集荷、契約、販売状況

毎月月末に公表している情報をグラフ化する等により掲載



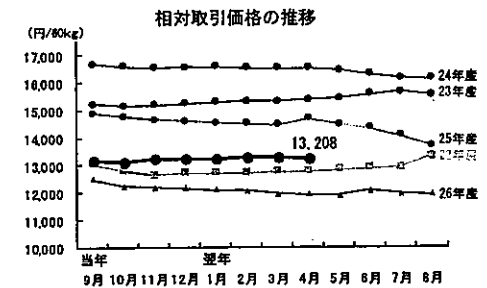
米に関するマンスリーレポート目次

- 特集
- I 米取引関係者の判断
- II 米の需給・契約・販売
- III 米の在庫情報
- IV 米の価格情報
- V 主食用米以外（輸出を含む）
- VI 支援事業等
- VII 消費動向
- VIII MA米（一般・SBS）の動向
- IX その他

※ 別冊の資料編には、各項目に対して、より詳細なデータや過去の実績を掲載しているほか、麦・大豆などの価格情報についても掲載。

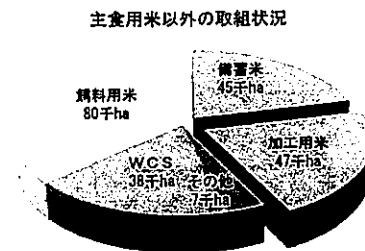
○ 相対取引価格・数量状況

毎月中旬に公表している情報をグラフ化する等により掲載



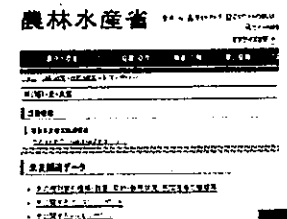
○ 主食用米以外（輸出含む）

飼料用米、加工用米等の情報を掲載



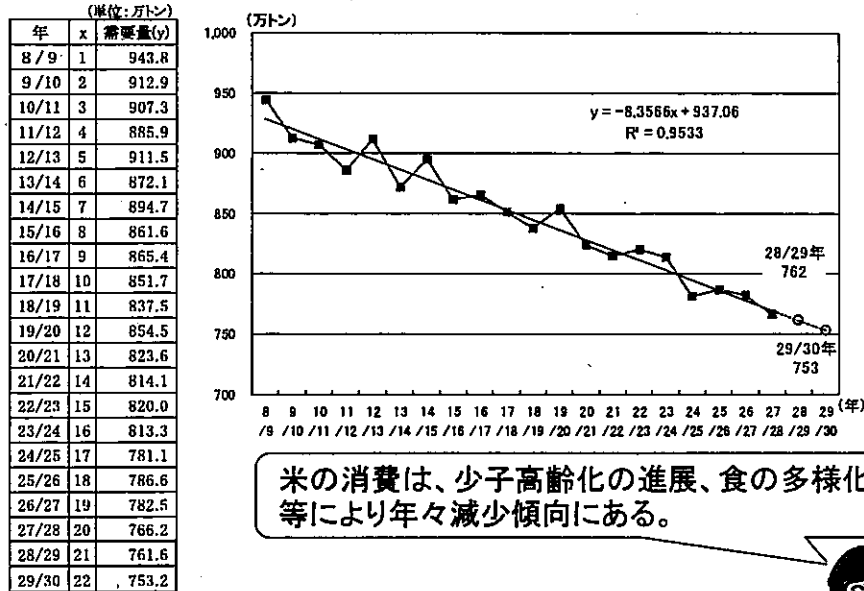
○ 情報提供手法

プレスリリース、農水省HPに掲載



○ 米の消費動向はどうなっているのか。

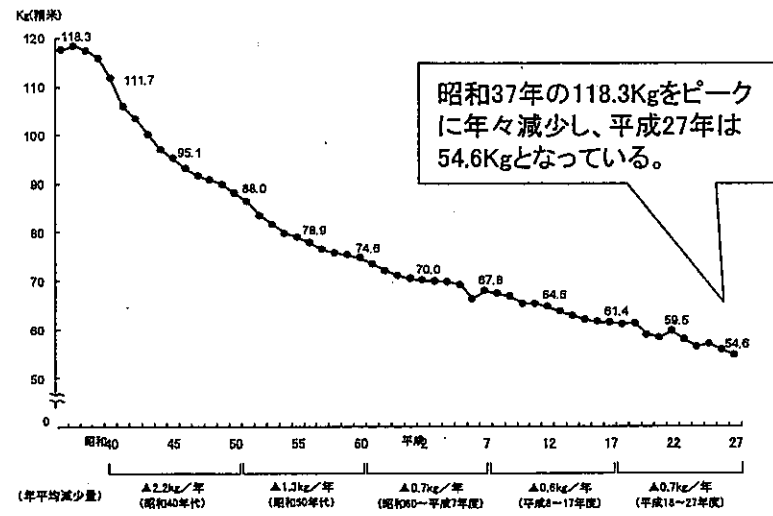
【全国の平成29/30年の需要見通し（推計値）】



米の消費は、少子高齢化の進展、食の多様化等により年々減少傾向にある。



【米の年間1人当たり消費量の推移】



【米の購入数量の推移（総務省「家計調査」）】

(単位: g, %)

	米	
	購入数量	対前年(同月)比
平成24年	78,780	97.8%
平成25年	75,170	95.4%
平成26年	73,050	97.2%
平成27年	69,510	95.2%

【1人1ヵ月当たり精米消費量の推移（米穀機構「米の消費動向調査」）】

(単位: 精米g/人、%)

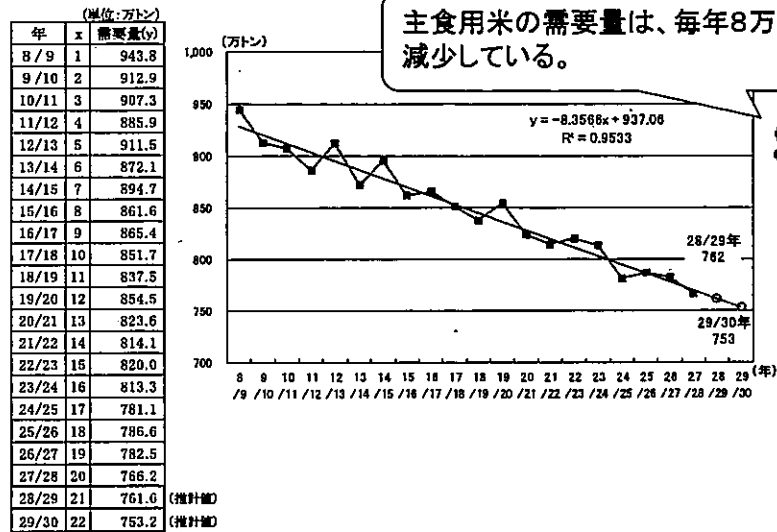
	精米消費量				
	合計	家庭内	中・外食	中食	
				中食	外食
24年度	4,909	3,351	1,558	900	658
25年度	4,466	2,993	1,473	846	627
26年度	4,554	3,216	1,338	758	580
27年度	4,386	3,027	1,360	793	567

米に関するマンスリーレポートの読み方 ②

現状把握：全体需給

○ 日本全体の今後の需給見通しの把握。

【全国の平成28/29年及び平成29/30年の需要見通し】



【生産数量目標の推移】

年産	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
生産数量目標	815	813	795	793	791	765	751	743	735
前年差	0	▲2	▲18	▲2	▲2	▲26	▲14	▲8	▲8

需要量の減少に伴い生産数量目標も年々減少している。

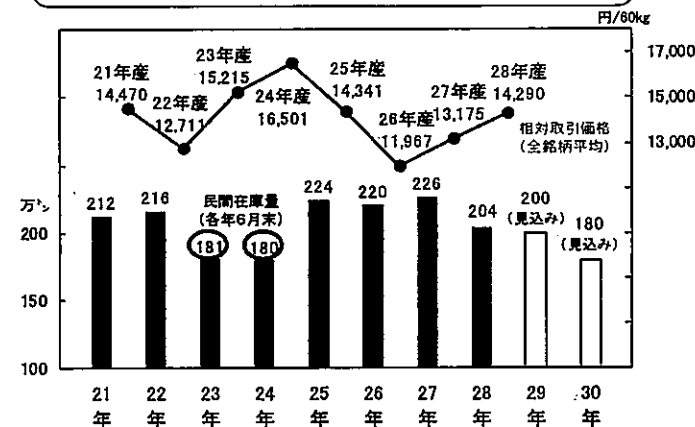
【平成29/30年の主食用米等の需給見通し】

		(単位：万トン)	
平成29年6月末民間在庫量	A	200	200
平成29年産主食用米等生産量	B	735 (生産数量目標)	733 (自主的取組参考値)
平成29/30年主食用米等供給量計	C=A+B	935	933
平成29/30年主食用米等需要量	D	753	753
平成30年6月末民間在庫量	E=C-D	182	180

生産数量目標や自主的取組参考値が達成された場合、H30年6月末在庫量は、それぞれ182万トと180万トになる。これはどういう水準なのか。

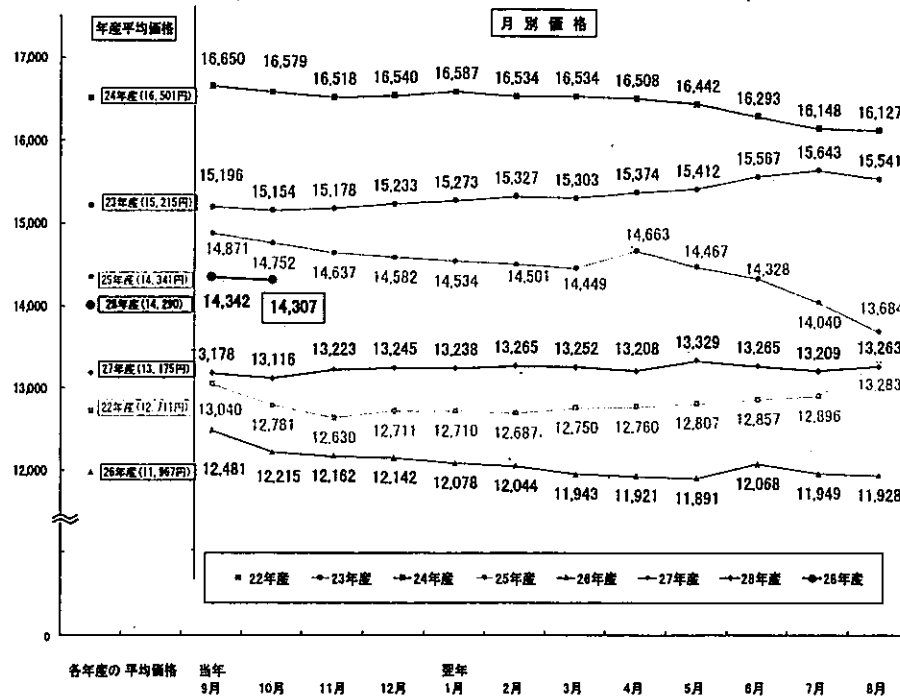
【相対取引価格と民間在庫量】

180万ト程度は、近年の実績から、安定供給を確保できる低位の水準ということか。



○ 28年産米の価格はどうなっているのか

【相対取引価格の推移（税込）（全銘柄平均価格）】



相対取引価格は、その年の需給状況により変動。
28年産は、昨年の価格と比較して、平均1,100円以上高い。



銘柄ごとに見ると、比較的値頃感がある銘柄の値上げ幅が大きい。

【価格帯別相対取引価格】

単位：円/玄米60kg（税込）

		27年産の相対取引価格			
		13,000円以上の銘柄の平均	13,000円～12,000円の銘柄の平均	12,000円～11,000円の銘柄の平均	11,000円未満の銘柄の平均
27年産(出回り～28年8月)	①	14,614	12,640	11,612	10,838
28年産(28年10月) (27年産価格帯ベース)	②	15,294	13,866	13,157	12,975
価格差	②-①	+ 680	+ 1,226	+ 1,545	+ 2,137

平成27年産と平成28年産の価格差
(相対取引価格上昇幅上位10銘柄)】

単位：円/玄米60kg（税込）

		平成27年産 (出回り～平成28年8月)	平成28年産 (平成28年10月)	価格差
		①	②	②-①
山形	ひとめぼれ	13,278	15,696	+ 2,418
千葉	ふさおとめ	10,988	13,172	+ 2,184
福島	天のつぶ	10,528	12,554	+ 2,026
栃木	あさひの夢	11,397	13,418	+ 2,021
福島	コンヒカリ	11,122	13,105	+ 1,983
茨城	あきたこまち	11,769	13,570	+ 1,801
栃木	なすひかり	12,020	13,813	+ 1,793
岡山	ヒノヒカリ	12,051	13,828	+ 1,777
福島	ひとめぼれ	11,136	12,863	+ 1,727
千葉	ふさこがね	11,120	12,789	+ 1,669

○ 事前契約の動向はどうなっているのか。

【産地別事前契約数量（28年10月）】

（累計、うるち米、平成28年10月末現在）（速報）

	25年産			26年産			27年産			28年産(平成28年10月末現在)	
	集荷数量 ①	うち事前契約分 ②	事前契約比率 ②/①	集荷数量 ③	うち事前契約分 ④	事前契約比率 ④/③	集荷数量 ⑤	うち事前契約分 ⑥	事前契約比率 ⑥/⑤	集荷数量	うち事前契約分
北海道	389.9	167.0	43%	398.0	161.0	40%	398.3	150.0	38%	205.0	169.4
青森	165.1	46.9	28%	169.6	26.1	15%	148.1	45.8	31%	85.4	52.6
岩手	148.8	82.3	55%	150.2	47.7	32%	156.0	70.9	45%	89.4	91.1
宮城	196.2	141.7	72%	216.3	111.3	51%	181.4	108.6	60%	129.4	112.0
秋田	319.5	102.6	32%	303.9	68.5	23%	277.8	80.1	29%	176.0	83.5
山形	259.0	56.9	22%	242.7	52.8	22%	215.6	55.3	26%	144.2	46.7
福島	173.9	27.9	16%	153.3	20.0	13%	137.7	32.0	23%	116.8	51.7
茨城	107.8	39.0	36%	109.8	46.0	42%	81.5	46.6	57%	59.1	37.1
栃木	191.8	43.1	22%	184.0	36.8	20%	142.0	61.2	43%	105.1	60.3
大分	18.6	1.6	9%	17.9	1.0	5%	15.5	1.1	7%	5.8	0.1
宮崎	23.0	18.7	81%	20.8	14.7	71%	15.2	13.2	86%	12.7	8.4
鹿児島	21.9	-	-	19.0	-	-	14.5	-	-	8.9	-
沖縄	1.7	-	-	1.7	-	-	1.6	-	-	1.4	-
全国	3,520	1,324	38%	3,436	1,024	30%	3,096	1,165	38%	2,117	1,267

注：28年産米の「事前契約比率」（集荷数量に対する事前契約数量の比率）については、集荷が一定程度進んだ段階で掲載。

価格の変動幅を小さくし、安定的な取引を行うため、また、30年産以降は、産地自らの判断で需要に応じた安定的な生産を行うこととなるため、複数年契約などの事前契約を拡大していくことが重要。



○ 主食用以外の米の状況はどうなっているのか

【主食用米以外の作付状況】

1 28年産米の作付状況

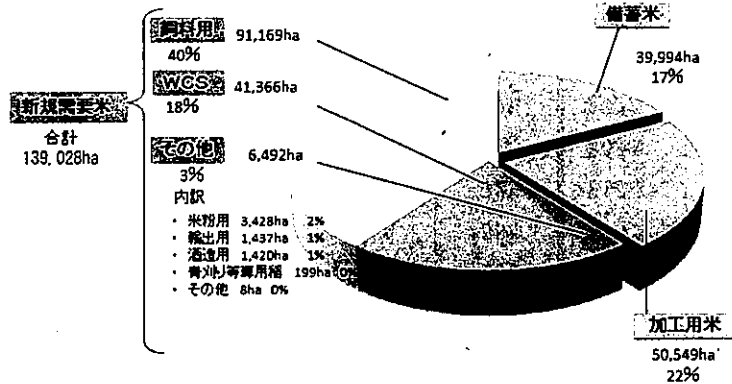
- 平成28年産米の作付面積は、主食用米が138.1万ha、主食用米以外が約23万ha、主食用米以外の取組は、新規需要米13.9万ha、加工用米5.1万ha、備蓄米4.0万ha。

(1) 28年産米の用途別作付面積及び生産量

	計	主食用米	新規需要米	加工用米	備蓄米
作付面積(万ha)	161.1	138.1	13.9	5.1	4.0
生産量(万トン)		752	52	28	23

※WGS、青刈り等専用品は生産量に計上していない

(2) 主食用米以外の取組状況(作付面積及び作付面積比率)



【配合飼料メーカーへの飼料用米の供給】

配合飼料メーカーへの飼料用米の供給について

- 養殖農家は、農協に出荷することで、自ら優先の確保を要せず、飼料用米の生産に取組可能。
- 農協は、CEや飼料農家が乾燥した飼料用米を地域の農業倉庫等で保管。
- 農協と出荷契約を締結した全国団体は、飼料メーカーの要望に応じ、工場近くの農業倉庫等で開袋・バラ化作業を行い、工場に搬入。
- 飼料メーカーは、とうもろこしの代替として飼料用米を配合し、畜産農家に出渡(工場は、在庫として保有せず、計画的に受入・配合)。
- 飼料工場では、次の履帯をクリアすれば、受入量の増加に対応可能。
- 配合飼料の主原料(とうもろこし等)と同等またはそれ以下の価格での供給
- 工場への長期的かつ計画的な供給と集荷・流通の円滑化(例えば、半年程度前から供給量の調整を行い、計画的に搬入)

配合飼料工場の立地状況
(平成27年12月時点)

企業数:65社
工場数:115工場

うち全国生産者団体系列の工場:21工場(19印に立地)

・飼料工場は、主に、太平洋側の港湾地域に立地
・畜産生産地を狭域地に持ち、新たに整備・開発された港湾地域への集荷が進展

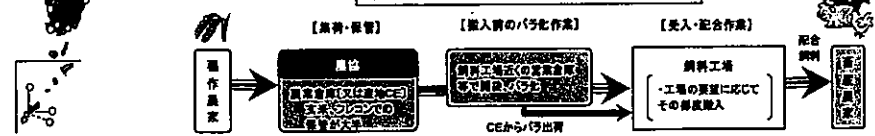
畜種別のコメの利用可能量(試算)

【畜産畜の生産や畜産物に影響を考慮することなく給与可能と見込まれる量】

区分	豚豚	ブタ	鶏	乳牛	肉牛	合計
配合飼料生産量	623万t	381万t	559万t	288万t	430万t	2,292万t
配合飼料配合	20%	50%	15%	10%	3%	
利用可能量	125万t	191万t	84万t	30万t	13万t	442万t
(参考)28年度使用量	34万t	31万t	25万t	6万t	4万t	100万t

資料:原料水産畜産(生産量は飼料メーカー向け、配合飼料配合は飼料メーカーからの取組及び研究報告をもとに試算)
注:利用可能量は、平成28年度の配合飼料生産量に配合飼料配合率を乗じて算出。

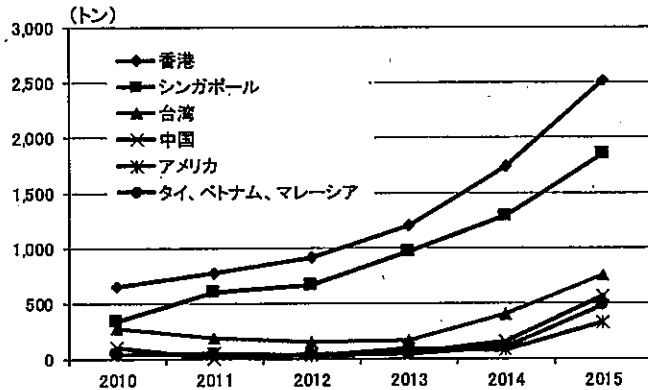
全国生産者団体による飼料用米の集荷・流通体制



飼料用だけでなく、加工用米や輸出用米の需要動向も併せて見ていく必要がある。



【商業用の米の主な国別輸出量の推移】



○ 米の需要動向はどうなっているのか。

【米の産地別契約・販売状況】

産地	締結数量 ①	契約数量 ②	契約比率 ②/①	販売数量 ③	販売比率 ③/①	参考：前年同月比 (○年度の同月期との比較)		
						販売数量	契約数量	販売数量
A県	148.3	141.2	95%	71.9	48%	▲12%	+5%	▲8%
(まっしぐら)	94.5	91.0	96%	41.8	44%	▲13%	▲8%	▲22%
(つがるロマン)	49.0	45.7	93%	25.9	53%	▲14%	+35%	+10%
B県	155.1	149.4	96%	63.9	41%	+4%	+28%	+4%
(ひとめぼれ)	123.1	118.7	96%	47.2	38%	+5%	+36%	+5%
(あきたこまち)	21.3	21.2	100%	11.2	53%	+4%	+11%	▲2%
(いわてっこ)	4.0	3.6	92%	1.4	34%	▲24%	▲23%	▲40%
C県	180.9	170.8	94%	74.5	41%	▲16%	+0%	+1%
(ひとめぼれ)	149.9	142.2	95%	60.5	40%	▲15%	+2%	+0%
(ササニシキ)	11.3	10.1	90%	4.6	41%	▲11%	+27%	+4%
(つや姫)	10.8	10.3	95%	6.0	55%
D県	274.9	227.4	83%	148.8	54%	▲9%	+10%	+7%
(あきたこまち)	225.2	183.2	81%	130.4	58%	▲7%	+10%	+6%
(めんこいな)	10.6	8.9	84%	4.3	40%	▲24%	▲2%	+131%
(ひとめぼれ)	23.9	23.6	99%	8.7	36%	▲13%	+10%	▲10%
E県	210.6	152.0	72%	91.8	44%	▲14%	▲17%	▲7%
(はえぬき)	130.2	90.5	70%	50.7	39%	▲17%	▲18%	+6%
(つや姫)	32.1	26.0	81%	18.7	58%	+2%	▲6%	▲18%
(ひとめぼれ)	22.2	18.3	83%	10.5	47%	▲12%	▲21%	▲9%
F県	137.7	115.2	84%	61.4	45%	▲10%	▲12%	▲13%
(コシヒカリ中通り)	42.1	33.9	81%	17.0	40%	▲12%	▲27%	▲37%
(コシヒカリ金津)	41.9	39.0	93%	17.9	43%	+0%	+23%	+47%
(コシヒカリ浜通り)	5.3	4.7	88%	2.7	52%	▲32%	▲21%	+9%
(ひとめぼれ)	29.9	24.1	81%	12.7	42%	▲12%	▲19%	▲31%
(天のつぶ)	9.0	7.1	79%	5.7	64%
全国①	3,058	2,765	90%	1,583	52%	▲10%	▲3%	▲7%
参考 前年同月(○年度)②	3,409	2,848	84%	1,707	50%			
参考 前年同月差(①-②)	▲351	▲83	+6ポイント	▲124	+2ポイント			

契約比率が、100%に近づく時期が早ければ早いほど、市場のニーズは高いと考えられる。全国平均の契約率90%と比較するなど数値の要因を考えることも一つの視点。



【産地別民間在庫量の状況(28年10月)】

平成27年度(28年10月末)
【出荷+販売段階】

産地	27年度 (H28.10末)	26年度 (H27.10末)	前年 同月比	産地	27年度 (H28.10末)	26年度 (H27.10末)	前年 同月比
北海道	35.2	48.5	72%	滋賀	4.2	4.9	86%
青森	15.6	26.8	58%	京都	1.0	1.4	71%
岩手	24.2	27.0	90%	大阪	0.1	0.2	29%
宮城	31.1	66.3	47%	兵庫	2.3	1.3	180%
秋田	24.1	51.9	47%	奈良	0.5	0.4	118%
山形	31.9	53.0	60%	和歌山	0.2	0.4	56%
福島	22.9	28.6	80%	鳥取	1.7	2.6	63%
茨城	13.3	13.6	97%	島根	1.6	5.3	31%
栃木	46.5	43.8	106%	岡山	5.5	7.1	77%
群馬	3.2	5.1	61%	広島	2.3	3.0	79%
埼玉	6.7	9.0	75%	山口	5.1	5.3	95%
千葉	5.8	18.6	31%	徳島	0.7	0.4	157%
東京	0.0	0.0	-	香川	1.5	1.8	86%
神奈川	0.0	0.0	113%	愛媛	2.1	2.6	81%
新潟	28.8	22.2	130%	高知	1.0	0.4	252%
富山	5.7	8.2	69%	福岡	9.2	6.8	135%
石川	8.2	8.5	97%	佐賀	3.5	4.4	80%
福井	6.3	7.0	90%	長崎	2.1	1.3	163%
山梨	0.4	0.9	45%	熊本	4.4	2.1	209%
長野	6.1	5.9	104%	大分	1.7	2.0	83%
岐阜	6.0	7.4	82%	宮崎	0.7	0.3	286%
静岡	0.3	0.4	81%	鹿児島	3.7	2.1	180%
愛知	3.6	5.5	65%	沖縄	0.0	0.0	-
三重	3.0	3.7	81%	全国計	385	519	74%

28年産は生産量が減少しており、全国計で前年同月比74%となっているが、青字の産地はそれを下回る在庫水準になっている。また、近隣県との比較も一つの視点。

○ 28年産米における米の価格動向は怎么样了のか。

【相対取引価格・数量（28年10月）】

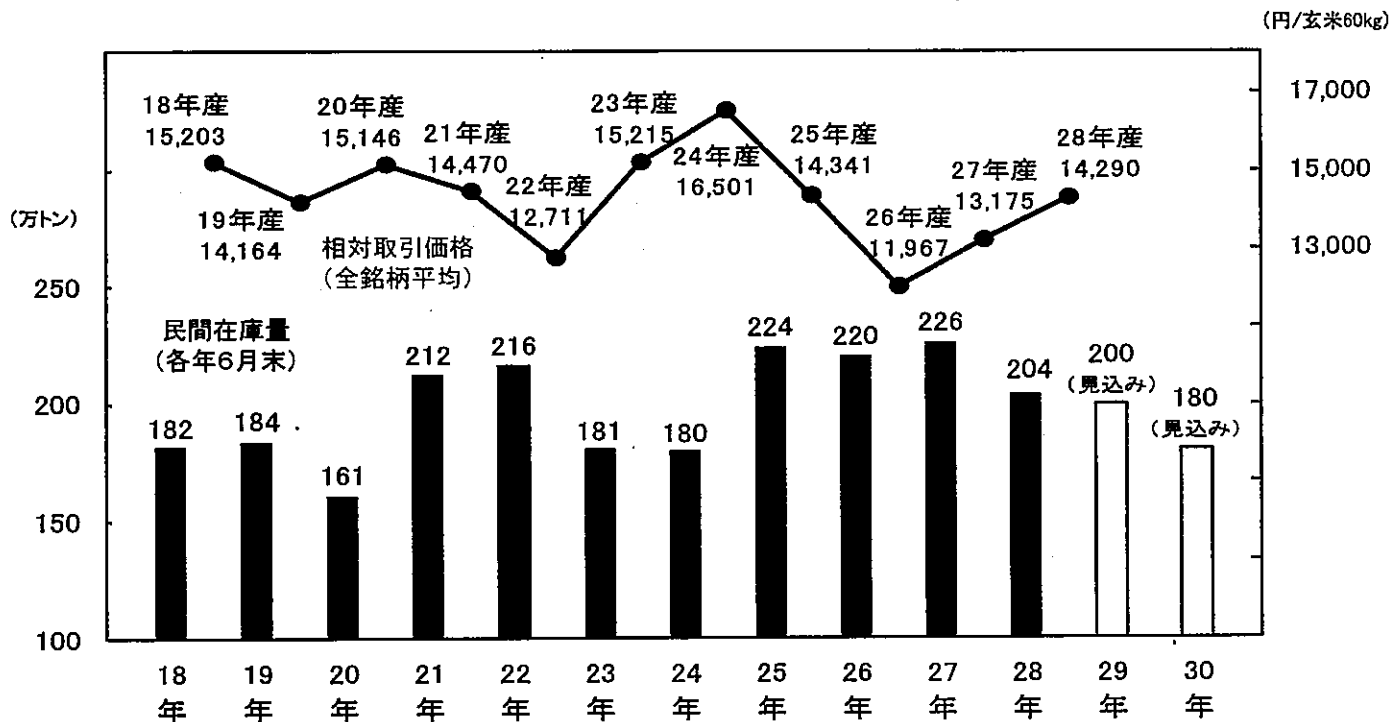
産地	品種銘柄	価格 28年産米 (28年10月) ①	数量 28年産米 (28年10月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				28年産米 〔出回り～ 28年10月〕 ⑦	27年産米 〔出回り～ 28年8月〕 ⑧	対前年比 ⑦/⑧
				28年産米 (28年9月) ③	対前月比 ①/③	27年産米 (27年10月) ④	対前年比 ①/④	28年産米 (28年9月) ⑤	対前月比 ②/⑤	27年産米 (27年10月) ⑥	対前年比 ②/⑥			
				③	①/③	④	①/④	⑤	②/⑤	⑥	②/⑥	⑦	⑧	⑦/⑧
北海道	ななつぼし	14,114	29,869	14,200	99%	12,995	109%	34,808	86%	29,648	101%	14,160	13,115	108%
北海道	きらら397	14,044	8,465	14,253	99%	12,497	112%	3,902	217%	11,686	72%	14,110	12,507	113%
青森	まっしぐら	13,172	5,763	12,988	101%	11,323	116%	729	791%	14,595	39%	13,166	11,571	114%
青森	つがるロマン	13,312	3,628	13,311	100%	11,556	115%	869	417%	11,776	31%	13,334	11,782	113%
岩手	ひとめぼれ	13,852	6,797	14,071	98%	12,954	107%	3,236	210%	4,247	160%	13,926	12,930	108%
岩手	あきたこまち	13,775	2,056	13,558	102%	11,991	115%	326	631%	3,131	66%	13,745	12,420	111%
岩手	いわてっこ	13,174	193	-	-	11,881	111%	-	-	243	79%	13,174	11,898	111%
宮城	ひとめぼれ	14,016	13,201	13,849	101%	12,782	110%	10,824	122%	12,493	106%	13,941	12,821	109%
宮城	ササニシキ	14,227	1,625	13,886	102%	12,813	111%	1,690	96%	2,757	59%	14,053	12,802	110%
~~~~~														
大分	ひとめぼれ	14,487	112	-	-	13,513	107%	-	-	108	104%	14,423	13,404	108%
宮崎	コシヒカリ	-	-	14,061	-	-	-	1,211	-	-	-	14,716	14,266	103%
宮崎	ヒノヒカリ	14,330	192	-	-	13,635	105%	-	-	376	51%	14,330	13,602	105%
鹿児島	ヒノヒカリ	14,628	138	-	-	13,375	109%	-	-	821	17%	14,628	14,216	103%
鹿児島	あきほなみ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,796	-
鹿児島	コシヒカリ	-	-	15,403	-	-	-	110	-	-	-	15,216	14,414	106%
全銘柄平均価格、合計数量		14,307	214,110	14,342	100%	13,116	109%	230,528	93%	288,422	74%	14,290	13,175	108%

28年産は、需給が引き締め基調にあることから、米価も1,100円程度上昇傾向(前年比108%)。では、自県産の米はどうか。



全銘柄平均(108%)を超えている銘柄のうち、青森県「まっしぐら」は、他と比べ上昇率が高く市場のニーズが高まっていることが伺える。

○ 全体需給の状況から、今後の需給状況を見通す。



注1：18年産から27年産の相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月（27年産は平成28年8月）までの通年平均価格であり、28年産の相対取引価格は、28年9月の値である。  
 注2：相対取引価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

民間在庫量が200万トンを下回れば、需給が締めり価格が上昇するという傾向が過去の実績から伺える。

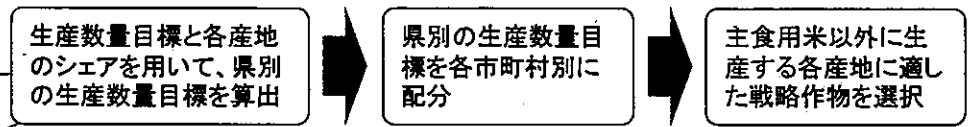


30年6月末の民間在庫量は180万トンとなる見込み。全国各産地においては、需要に応じた生産に取り組むことが重要。

○ 水田フル活用ビジョンに向けたマンスリーレポートの活用。

【平成29/30年の主食用米等の需給見通し】

項目	記号	29年度	30年度
平成29年6月末民間在庫量	A	200	200
平成29年度主食用米等生産量	B	735	733
平成29/30年度主食用米等供給量計 C=A+B	C	935	933
平成29/30年度主食用米等需要量	D	753	753
平成30年6月末民間在庫量 E=C-D	E	182	180



【平成28年度米の都道府県別の生産数量目標等】

都道府県	28年度生産数量目標のシェア(%)	28年度生産数量目標		28年度自主的取組目標	
		735万トン	138万ha	733万トン	134万ha
全国計	100%	735万トン	138万ha	733万トン	134万ha
北海道	547,330 / 7,510,000	535,889	99,015	534,212	98,745
青森	242,460 / 7,510,000	237,294	40,494	238,649	40,384
岩手	271,210 / 7,510,000	265,432	45,796	264,710	45,571
宮城	348,920 / 7,510,000	341,193	64,255	340,264	64,080
秋田	417,540 / 7,510,000	408,444	71,517	407,532	71,123
山形	344,500 / 7,510,000	337,160	58,688	336,243	58,511
福島	339,550 / 7,510,000	332,316	61,313	331,412	61,146
茨城	337,370 / 7,510,000	330,182	63,912	329,284	62,840
栃木	298,690 / 7,510,000	292,326	54,134	291,531	53,937
群馬	75,670 / 7,510,000	74,058	14,461	73,826	14,320
埼玉	151,270 / 7,510,000	148,047	30,214	147,644	30,131
千葉	246,490 / 7,510,000	241,239	45,091	240,582	44,959
東京	770 / 7,510,000	754	182	752	183
神奈川	14,400 / 7,510,000	14,093	2,859	14,055	2,851
新潟	521,290 / 7,510,000	510,184	94,304	508,796	94,047
富山	185,650 / 7,510,000	181,695	33,710	181,200	33,618
石川	123,630 / 7,510,000	120,908	23,313	120,667	23,250
福井	125,460 / 7,510,000	122,787	23,658	122,453	23,584
山梨	27,430 / 7,510,000	26,846	4,908	26,773	4,895
長野	184,000 / 7,510,000	181,887	30,574	181,350	30,481
岐阜	111,270 / 7,510,000	108,199	22,315	108,403	22,255
愛知	82,920 / 7,510,000	81,153	15,576	80,923	15,534
三重	134,970 / 7,510,000	132,094	28,054	131,735	27,943
滋賀	143,510 / 7,510,000	140,553	28,991	140,020	28,874
京都	160,450 / 7,510,000	157,032	30,515	156,004	30,215
大阪	75,830 / 7,510,000	74,312	14,542	74,110	14,503
兵庫	28,220 / 7,510,000	27,681	5,184	27,592	5,170
大分	180,440 / 7,510,000	178,596	35,178	178,115	35,083
熊本	41,690 / 7,510,000	40,402	7,954	40,491	7,932
鹿児島	34,850 / 7,510,000	34,109	6,891	34,016	6,872
沖縄	68,110 / 7,510,000	64,792	12,588	64,525	12,554
高知	90,900 / 7,510,000	88,083	17,305	87,843	17,258
徳島	158,550 / 7,510,000	155,172	29,500	154,750	29,420
香川	129,970 / 7,510,000	127,201	24,321	126,855	24,255
愛媛	106,760 / 7,510,000	104,443	21,120	104,153	21,062
高松	58,540 / 7,510,000	57,293	12,047	57,137	12,054
岡山	70,240 / 7,510,000	68,744	13,726	68,556	13,729
広島	73,920 / 7,510,000	72,345	14,527	72,148	14,448
山口	50,070 / 7,510,000	48,063	10,599	48,070	10,570
徳島	182,470 / 7,510,000	178,542	35,932	178,097	35,534
香川	138,420 / 7,510,000	135,471	28,102	135,102	28,031
高松	62,850 / 7,510,000	61,511	12,842	61,344	12,807
岡山	188,310 / 7,510,000	185,277	36,116	184,773	36,018
広島	117,690 / 7,510,000	115,183	22,945	114,869	22,882
山口	80,600 / 7,510,000	78,406	16,489	78,257	16,419
徳島	111,070 / 7,510,000	108,704	22,552	108,406	22,491
香川	2,850 / 7,510,000	2,799	606	2,781	603

<戦略作物の選択に資するデータ>

【水田活用の支払交付金】

- 麦 【28年度産麦の産地別銘柄別入札結果】
- 大豆 【28年度産大豆の産地別銘柄別入札結果】
- 野菜 【野菜等の需給状況】

【水田活用直接支払交付金】

対象作物	交付単価
麦	35千円/10a
大豆	35千円/10a
飼料用米・米粉用米	収量に応じ、55千円～105千円/10a
二毛作助成	15千円/10a
稲畜連携助成	13千円/10a

【県水田フル活用ビジョン】

		主食用米	飼料用米	加工用米	米粉用米	大豆	麦
A市	面積	○ha	○ha			○ha	
	国からの交付額	7.5千円/10a(※)	60千円/10a			35千円/10a	
	市からの交付額		○円/10a			○円/10a	
B町	面積	○ha	○ha	○ha			○ha
	国からの交付額	7.5千円/10a(※)	80千円/10a	20千円/10a			35千円/10a
	町からの交付額		○円/10a	○円/10a			○円/10a
C村	面積	○ha		○ha	○ha		
	国からの交付額	7.5千円/10a(※)		20千円/10a	90千円/10a		
	村からの交付額			○円/10a	○円/10a		

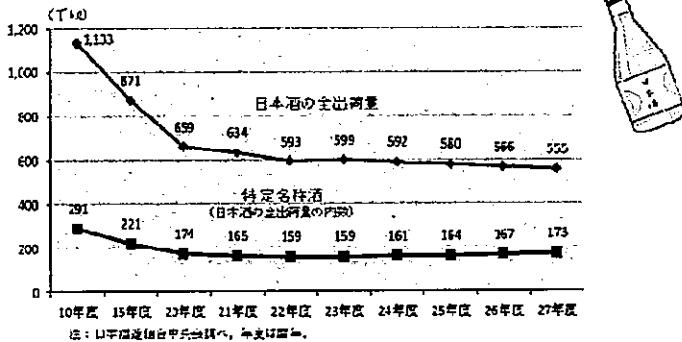
※：「米の直接支払い交付金」として生産調整に参加した者に対して7.5千円/10aを交付。

従来の定型的な報告だけでなく、タイムリーな特集記事を掲載。

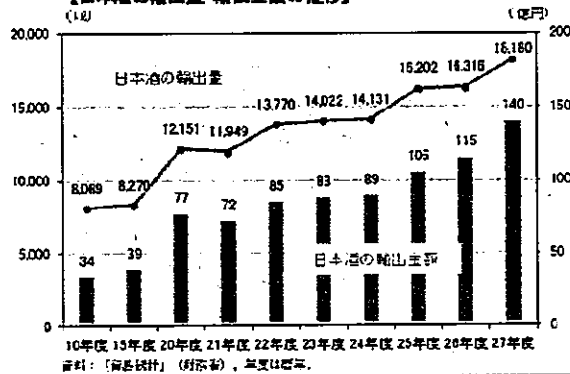
### 【最近の日本酒(酒造好適米)をめぐる状況】

- 日本酒の国内出荷数量は、長期的に減少傾向にあったが、近年では、消費者の志向が量から質へと変化する中で、吟醸酒、純米酒等の特定名称酒の需要が堅調なことから、厚ぼろはいで推移。
- また、日本酒の輸出は、日本食ブーム等を背景に、近年、増加傾向にあり、平成27年度では、輸出量18,180kℓ、輸出金額140億円と、共に過去最高を記録。

【日本酒の国内出荷数量の推移】



【日本酒の輸出量・輸出金額の推移】



～ 地理的表示 (GI: Geographical Indication) 「日本酒」の指定 ～

日本酒のブランド価値向上や輸出促進の観点から、平成27年12月26日から、清酒の原料の米に国産米のみを扱い、かつ、日本国内で製造された清酒のみが、「日本酒」を合法的に「名乗る」ことができるようになりました。

### 【平成28年産水稲うるち米の品種別作付動向について】

- ※穀増産が公表した平成28年産水稲うるち米の品種別作付動向は以下のとおり。

【上位20品種の動向】

「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」等の主要品種の作付が減少する一方、「ゆめぴりか」が初めて上位10位にランクインしたほか、「つや姫」などの道産の奨励品種の作付が増加している状況。

【上位10品種がうるち米作付面積全体に占める割合】

前年産定産額と比べ▲1.2%の74.7%

【上位20品種がうるち米作付面積全体に占める割合】

前年産定産額と比べ▲1.5%の83.3%

### 平成28年産うるち米の品種別作付割合上位20品種(速報)

順位	品種名	作付割合	主要産地	前年度の順位	前年作付割合比
1	コシヒカリ	35.9	新潟、茨城、福島	1	-0.2
2	ひとめぼれ	9.4	宮城、岩手、福島	2	-0.3
3	ヒノヒカリ	8.7	大分、熊本、鹿児島	3	-0.3
4	あきたこまち	6.8	秋田、岩手、茨城	4	-0.4
5	ななつぼし	3.5	北海道	5	-0.1
6	はえぬき	2.7	山形	6	-0.1
7	キヌヒカリ	2.6	滋賀、兵庫、埼玉	7	-0.1
8	まつしぐら	1.9	青森	8	0.0
9	あさひの夢	1.6	熊本、群馬	9	0.0
10	ゆめぴりか	1.6	北海道	11	-0.2
上位10品種の合計		74.7			
11	こしいぶき	1.4	新潟	10	-0.1
12	きぬむすめ	1.0	鳥取、岡山、鳥取	12	0.1
13	つや姫	1.0	山形、宮城	17	0.2
14	夢つくし	0.9	福岡	14	-0.1
15	あいちのかおり	0.9	愛知	16	0.0
16	つがるロマン	0.9	青森	13	-0.1
17	彩のかがやき	0.7	埼玉	18	-0.1
18	さらさら397	0.7	北海道	15	-0.2
19	ふさこがね	0.6	千葉	20	0.0
20	ハナエチゼン	0.5	福井	21	-0.1
上位20品種の合計		83.3			

注1) うるち米作付面積全体に占める割合。

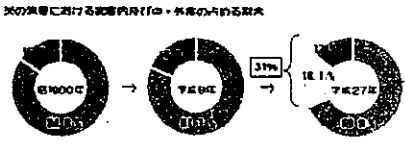
注2) 来年3月公表予定の「平成28年産水稲の品種別作付動向(確定版)」においては、順位、作付割合等が変動する場合があります。

【中食・外食事業者等の米の仕入れ等の動向】

中食・外食事業者等の米の仕入れ等の動向

食の簡便化志向の強まり等により、お米を購入して、家庭で炊飯する割合が年々低下する一方で、主食用米需要量の約3割を中食・外食等が占めており、今後もシェアの拡大が期待されていると見られます。

このような状況を踏まえ、この度、米穀安定供給確保支援機構において、中食・外食事業者及び給食事業者の米に関する調査を実施し、その結果が「中食・外食事業者等の米の仕入れ等の動向（米に関するレポート）」として公表されましたので、その一部を紹介いたします。



◆レポート掲載ページ（米穀安定供給確保支援機構HP）  
http://www.komenet.jp/pdf/chousa-rep_H28-1.pdf

「中食・外食事業者等の米の仕入れ等の動向（米に関するレポート）」抜粋  
(平成28年7月5日 米穀安定供給確保支援機構 公表)

《米の仕入れ先と契約方法》

米の仕入れ先で最も多かったのは「卸売業者」で、その理由としては、  
① 調達能力の高い卸売業者を仲介することで、調達業務の効率化が図れること  
② 必要量の安定的な確保が図られること  
③ 仕入れ価格に応じた原料調達が可能であること等、経営メリットを見出しているためとみられる。

主な仕入れ先 (複数回答)

仕入れ先	全体	中食 専業者	外食 専業者	給食 専業者
卸売業者	16	3	5	8
会社	1	1	1	
生産者	2	1	1	1
JA	5	2	2	1

※回答があった事業者のみ

主な契約方法 (複数回答)

契約方法	全体	中食 専業者	外食 専業者	給食 専業者
単年契約 (行先毎年別契約)	11	3	5	3
複数年契約	3	2	1	1
契約なし	2	1	1	1
定めていない	2			2

※回答があった事業者のみ

《米の仕入れ時の重視点》

ほとんどの事業者が食味等の品質を重視し、併せて価格とのバランスも重視している。簡単に、納入価格の上昇分を製品に転嫁しにくいと、食味重視だけでは不十分な現実もあることを示している。

仕入れ時の重視点 (複数回答)

事業者	重視点
中食専業者	食味等の品質と価格のバランス(2) 食味を最重視 特A銘柄であること
外食専業者	食味等の品質と価格のバランス(5) 食味を最重視
給食専業者	食味等の品質と価格のバランス(2) 食味を最重視(2) 産地であること(2) 食味と価格の バランス

※( )内は回答数

【ふるさと納税の返礼品として提供される米の状況について】

- ・ 主食用米の流通経路が多岐にわたる中で、近年、「ふるさと納税」の返礼品として提供される米の流通量が増えていることから、市町村等への聞き取り調査を実施。
- ・ その結果、全国の1,718市町村のうち、732の市町村において、「ふるさと納税」の返礼品に1米を入れており、平成27年1月から12月までの1年間に提供された米の数量は約1.3万トン。

ふるさと納税の返礼品として提供されたお米 (平成27年1月～12月)

(単位: 玄米トン)

全国の市町村数 ※1	返礼品としてお米を提供している自治体 ※2・3	回答	返礼品としてお米を提供している量 (平成27年1月～12月)
1,718	732	724	13,100

(実施率: 42.6%) (回答率: 98.9%)

※1 全国の市町村数は総務省公表値(平成26年4月時点)。ただし、特別区は含まない。  
※2 返礼品にお米を提供している自治体数は、ふるさと納税ポータルサイトから、お米(うるち米、もち米)を提供している県・市町村数と集計。  
※3 返礼品にお米を提供している自治体数には、県として専任している山形県、山梨県、岐阜県を含む。

【参考】ふるさと納税の返礼品として提供された米の使用量 (地域別)

単位: 玄米トン

地域	使用量 (トン)	主な産地
北海道	1,100	旭川
東北	5,000	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
関東	2,200	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、群馬
北陸	300	福井、石川、福井、福井
東海	100	岐阜、愛知、三重
近畿	300	奈良、和歌山、兵庫、京都、大阪府
中国	3,400	広島、岡山、山口、広島、山口
四国	700	徳島、高松、香川、愛媛
九州・沖縄	500	福岡、佐賀、熊本、鹿児島、沖縄、宮崎、鹿児島

※100%未満は四捨五入

ふるさと納税に係る返礼品は、市町村等から聞き取った範囲です。本調査にご協力いただいた関係者の御礼に深く感謝し、可く御礼申し上げます。

各産地の協議会において、翌年産の主食用米等の作付を的確に判断できるよう、「米に関するマンスリーレポート」の内容を更に充実。

### 【新たな掲載内容例】

- #### 1 産地別事前契約の状況
- 播種前契約、複数年契約などの事前契約は、作付前に予め販売数量の見通しが立つとともに、価格変動幅も一定に収めることができることから、需要に応じた生産に向け拡大させる必要がある。
  - 一般的に事前契約比率は、高い方が望ましい。

- #### 2 産地別民間在庫量の状況
- 1年古米の民間在庫量は、各都道府県において需要に見合った生産が行われているかどうかを判断する一つの指標となる。
  - 一般的に民間在庫比率は、低い方が望ましい。

平成27年産米の産地別事前契約比率  
(事前契約数量を農産物検査数量で除した比率)

順位	産地	事前契約比率	順位	産地	事前契約比率
1	山口	55.1%	25	富山	23.0%
2	宮城	52.1%	26	山形	21.5%
3	広島	50.3%	27	愛知	18.8%
4	香川	50.0%	28	石川	16.7%
5	島根	44.7%	29	福島	15.3%
6	岩手	44.1%	30	埼玉	14.3%
7	宮崎	43.9%	31	福井	9.7%
8	滋賀	43.5%	32	高知	6.2%
9	佐賀	42.9%	33	大分	3.8%
10	新潟	40.1%		群馬	0.0%
11	和歌山	36.8%		東京	0.0%
12	栃木	35.7%		神奈川	0.0%
13	福岡	32.9%		山梨	0.0%
14	京都	31.7%		静岡	0.0%
15	北海道	31.7%		大阪	0.0%
16	熊本	29.7%		兵庫	0.0%
17	青森	27.6%		奈良	0.0%
18	三重	26.9%		岡山	0.0%
19	秋田	26.0%		徳島	0.0%
20	岐阜	25.3%		愛媛	0.0%
21	長野	25.0%		長崎	0.0%
22	千葉	24.5%		鹿児島	0.0%
23	茨城	24.3%		沖縄	0.0%
24	鳥取	23.3%	全国計		28.6%

↑ 事前契約比率が高い

平成27年産米の産地別民間在庫比率  
(平成28年9月末民間在庫量を農産物検査数量で除した比率)

順位	産地	民間在庫比率	順位	産地	民間在庫比率
1	静岡	3.0%	25	福島	11.9%
2	宮崎	3.8%	26	福岡	12.2%
3	千葉	4.6%	27	佐賀	12.7%
4	徳島	4.8%	28	長崎	13.1%
5	奈良	5.5%	29	岡山	13.5%
6	三重	5.7%	30	愛媛	14.0%
7	島根	6.4%	31	兵庫	16.5%
8	滋賀	6.4%	32	山口	16.9%
9	高知	7.2%	33	岩手	17.0%
10	広島	7.5%	34	岐阜	17.3%
11	新潟	7.7%	35	鹿児島	17.3%
12	京都	7.8%	36	山形	17.4%
13	富山	8.1%	37	宮城	17.6%
14	秋田	8.2%	38	青森	18.0%
15	長野	9.1%	39	埼玉	21.1%
16	茨城	9.3%	40	群馬	23.1%
17	大分	9.5%	41	栃木	25.8%
18	福井	9.7%		東京	-
19	北海道	9.8%		神奈川	-
20	鳥取	10.2%		山梨	-
21	熊本	10.8%		大阪	-
22	愛知	11.0%		和歌山	-
23	石川	11.1%		沖縄	-
24	香川	11.7%	全国計		11.8%

↑ 民間在庫比率が低い

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」、「米穀の農産物検査結果」  
注：事前契約数量とは、播種前・収穫前契約及び複数年の契約による数量である。

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」、「米穀の農産物検査結果」  
注1：検査数量が1万トンに満たない産地の民間在庫比率は「-」としている。  
注2：一部の業務用においては、商品適正の関係で古米として計画的に使用されている例もある。

【新たな掲載内容例】

3 深掘り産地と過剰作付産地の価格動向

- 深掘り産地と過剰作付産地の価格動向を分析。
  - ・ 28年産米の相対取引価格（28年9月）は、全銘柄平均で14,342円/60kgとなっており、前年産（年産平均）に比べ9%上昇。
  - ・ 産地別にみると、深掘りを行った青森県は、作況が104であったものの、「まっしぐら」の価格は12%上昇。
  - ・ 一方、過剰作付となった茨城県では、作況が99であったものの、「コシヒカリ」の価格は5%の上昇に留まった。
  - ・ 深掘り産地は、作況が良くとも価格上昇率は全国平均を上回るが、過剰作付産地の価格上昇率は全国平均を下回っている。

【28年産】

		深掘りの産地			過剰作付の産地		
					(単位:ha)		
		青森	秋田	山形	茨城	千葉	新潟
主食用米作付面積	①	36,800	69,300	56,800	67,200	53,900	101,500
生産数量目標(面積換算)	②	41,079	72,152	57,275	63,698	45,582	97,076
深掘り率	①/②	▲ 10%	▲ 4%	▲ 1%	+ 5%	+ 18%	+ 5%
作況指数		104	104	103	99	102	108

		深掘りの産地			過剰作付の産地		
					(単位:円/玄米60kg(税込))		
		青森 まっしぐら	秋田 あきたこまち	山形 はえぬぎ	茨城 コシヒカリ	千葉 コシヒカリ	新潟一般 コシヒカリ
相対取引価格	全銘柄平均	11,571	12,844	12,445	12,644	12,530	16,186
27年産(年産平均)	③	12,988	14,151	13,842	13,302	13,593	16,599
28年産(28年9月)	④	+ 12%	+ 10%	+ 11%	+ 5%	+ 8%	+ 3%
上昇率(前年比)	④/③						

全国平均を上回る上昇率

全国平均を下回る上昇率



【新たな掲載内容例】

4 産地銘柄別の需要量

○ 将来の作付判断に資する情報として、産地別の需要量をよりきめ細かく、産地主要銘柄の需要量も掲載。

27/28年の主食用米等需要実績(6報値)

(単位:千t)

産地	品種銘柄	27/28年	産地	品種銘柄	27/28年	産地	品種銘柄	27/28年	産地	品種銘柄	27/28年	産地	品種銘柄	27/28年					
北海道		572	群馬		71	静岡		82	岡山		154	長崎		59					
	ななつぼし	243		あさひの夢	30		コシヒカリ	36		アケボノ	28		ヒノヒカリ	36					
	ゆめぴりか	98	埼玉		157	あいちのかおり	14	あきたこまち		26	にこまる		10	熊本		166			
	きらら397	84		コシヒカリ	64	愛知		139		ヒノヒカリ	24		コシヒカリ		7	ヒノヒカリ	78		
青森		241	彩のかがやき	43	あいちのかおり		52	広島		119	山口		101	大分		106			
	まっしぐら	146	キヌヒカリ	20	コシヒカリ	32	コシヒカリ		49	コシヒカリ		22	ヒノヒカリ		79	宮崎		75	
つがるロマン	87	千葉		316	三重		136		ヒノヒカリ	22		あきろまん	12	コシヒカリ	18		森のくまさん	16	
岩手			269	コシヒカリ		199	コシヒカリ		102	滋賀			161	徳島		55	鹿児島		96
	ひとめぼれ		180	ふさこがね	51	キヌヒカリ	15	コシヒカリ	57		コシヒカリ	27	コシヒカリ		29	鹿儿島			59
	あきたこまち	38	ふさおとめ	42	京都		72	日本晴	19		キヌヒカリ	17	コシヒカリ		18		あきほなみ	9	
いわてっこ	14	東京		1		大阪		27	兵庫			175	香川			66	沖縄		2
宮城			390	神奈川	16		コシヒカリ	57		コシヒカリ	63	ヒノヒカリ		35	コシヒカリ	21		全国	
	ひとめぼれ	305	新潟		538	キヌヒカリ	39	ヒノヒカリ		31	あきたこまち	15		高知		52			
	まなむすめ	28		コシヒカリ	371	日本晴	19	コシヒカリ		27	コシヒカリ	17			コシヒカリ	26	福岡		176
ササニシキ	23	こしいぶき	103	京都		40	奈良		49	コシヒカリ	31	コシヒカリ	67	佐賀		125			
秋田		470	富山			187		キヌヒカリ	17	ヒノヒカリ	31	コシヒカリ	4		コシヒカリ	59	夢しずく		31
	あきたこまち	347		コシヒカリ	137	和歌山			35	コシヒカリ	4	和歌山	35	ヒノヒカリ	15	さがびより		25	
	めんこいな	36	てんたかく	24	大阪				27	鳥取		64	コシヒカリ	26	ヒノヒカリ	19	きぬむすめ	27	
ひとめぼれ	35	石川		122		兵庫		175	コシヒカリ		63	コシヒカリ	31	コシヒカリ	24	愛媛		71	
山形			383	コシヒカリ	82	奈良		49	ヒノヒカリ		35	コシヒカリ	21	コシヒカリ	19		高知		52
	はえぬき	249	ゆめみづほ	25	ヒノヒカリ		31	コシヒカリ	31		あきたこまち	15	コシヒカリ	15	コシヒカリ	26		福岡	
	つや姫	38	福井		121	奈良		49	キヌヒカリ	31	あきたこまち	15	コシヒカリ	19	コシヒカリ	67	佐賀		
	ひとめぼれ	36		コシヒカリ	64		ヒノヒカリ	31	コシヒカリ	4	コシヒカリ	17	コシヒカリ	26	ヒノヒカリ	15		コシヒカリ	59
福島		341	ハナエチゼン	32	和歌山		35	鳥取		64	香川		66	鹿児島		96			
	コシヒカリ	201	山梨			27	和歌山		35	コシヒカリ		27	コシヒカリ		17	コシヒカリ	24	コシヒカリ	29
ひとめぼれ	77	コシヒカリ		18	山梨		27		鳥取		64	香川		66	鹿児島		96		
茨城		356	あさひの夢	2		コシヒカリ	18			コシヒカリ	27		コシヒカリ	17		コシヒカリ	24	コシヒカリ	29
	コシヒカリ	262	長野		203	あさひの夢	2	和歌山		35	香川		66	鹿児島		96			
	あきたこまち	43		コシヒカリ	149	あさひの夢	2		和歌山	35		コシヒカリ	17		コシヒカリ	24	コシヒカリ	29	
ゆめひたち	13	コシヒカリ	149	あきたこまち	25	和歌山		35	鳥取		64	香川		66	鹿児島		96		
栃木		295	あきたこまち	25	和歌山			35		鳥取			64	香川			66	鹿児島	
	コシヒカリ	193	岐阜			109	和歌山	35	コシヒカリ		27	コシヒカリ	17		コシヒカリ	24	コシヒカリ		29
	あさひの夢	73		ハツシモ	40	和歌山	35	和歌山	35	コシヒカリ	27	コシヒカリ	17	コシヒカリ	29				
なすひかり	13	コシヒカリ	32	和歌山	35	和歌山	35	コシヒカリ	27	コシヒカリ	17	コシヒカリ	29						

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」、「作物統計」、(公社)米穀安定供給確保支援機構「品種別作付動向」  
 注：産地銘柄別の需要実績は、平成27年6月末民間在庫に平成27年産生産量を加入、平成28年6月末民間在庫を控除して算定。  
 なお、産地銘柄別の需要実績算定にあたり生産段階の在庫量は、銘柄別に把握できないことから、考慮していない。

5 事前契約

○ 平成27年産主食用米の事前契約比率は37%となっており、前年に比べ7%上昇。

事前契約数量の推移

(単位: 玄米千トン)

	26年産				27年産 (平成28年8月末現在)			
	集荷数量 ③	うち事前契約分 ④	うち複数年契約	事前契約比率 ④/③	集荷数量 ⑤	うち事前契約分 ⑥	うち複数年契約	事前契約比率 ⑥/⑤
北海道	398.0	161.0	131.6	40%	297.5	150.0	75.1	50%
東北	1,236.0	326.4	132.7	26%	1,124.1	387.8	53.0	34%
関東	560.8	139.3	10.2	25%	447.0	174.3	9.4	39%
北陸	505.8	180.5	15.8	36%	463.0	195.6	16.6	42%
東海	106.8	31.2	-	29%	95.9	36.6	-	38%
近畿	134.9	34.3	-	25%	132.2	46.2	0.3	35%
中国	174.5	50.6	-	29%	148.8	71.8	-	48%
四国	60.8	13.2	-	22%	50.0	13.4	-	27%
九州	215.0	87.4	0.5	41%	198.7	86.8	0.0	44%
全国	3,436	1,024	291	30%	3,101	1,163	154	37%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

注2：報告対象米穀は、水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

注3：26年産は生産年の翌年10月末時点、27年産は28年8月末時点の数量である。

注4：集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

注5：うち事前契約分とは、3の集荷数量のうち、は種前・収穫前契約及び複数年の契約による数量（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）である。

注6：うち複数年契約とは、5の事前契約分のうち、複数年の契約による数量（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）である。

注7：全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、地域毎の合計と一致しない。

注8：「-」は、複数年契約に該当がないもの。

注9：沖縄は九州に含まれる。